地域活動のご紹介　地域から信頼され、必要とされる士業であり続けるために・・・

“つながる力”は無限大「こらぼ会」ついに50回！

清水が主宰する異業種交流の場「こらぼ会」が50回を迎えました。2016年のスタートから9年。業種も年齢もさまざまな人が集まり、隔月での情報交換を続け、出会いの輪を広げてきました。

専門的で閉じた世界にこもりがちな司法書士は、柔軟な発想を養うことが不可欠です。

対話を重ねることで気軽に相談できる仲間づくりができる同会では、雑談の中からイベント企画やビジネスの着想を得るなど未知の可能性が芽吹いています。

それを象徴するのが、「白瀬綾乃」さんのエピソードです。芸術療法を学び、「年齢や障害にかかわらず誰でも参加できる造形教室」を主宰する白瀬さん。同会をきっかけに施設とのご縁が広がり、子どもと高齢者が同じテーマで作品を制作・展示するイベントが実現。造形、マンガと得意なことを活かして挑戦を重ねる姿は、仲間の励みとなり会の原動力にもなっています。

司法書士事務所として地域の声に耳を傾け、人と人をつなぎ、“交流のハブ”として、小さな出会いから新しい未来を生み出す場を作ってゆきたいです。

白瀬さんのブログ
活動紹介中！

あいおい日和

水槽のボスとして君臨しているカクレクマノミ※（大）♀が、やけに機嫌が悪く、他の魚に八つ当たり気味。

（※映画『ファインディング・ニモ』の“ニモ”のモデル）

ニモ（小）♂がエサも食べずにイソギンチャクに張り付いているで、おかしいなぁと思っていたらニモの卵を発見。→

ニモ（小）♂は父の責任を果たすべく、卵を守りエラで必死に水を送っているようです。

卵に目を凝らすと小さな目玉や縞模様も…赤ちゃんニモ、準備万端。

水槽業者さん曰く「今晩あたり、かえるかな。でも、生まれても他の魚のおやつになるか、循環ポンプに吸い込まれてしまうかも」。

翌朝、やはり卵はなく。イソギンチャクのそばを離れない“父ニモ”の背中が切ない…。

――そして後日談。

ママニモは産卵スイッチ入りっぱなしで、縄張り意識もさらに強まり、気の荒さに拍車が。

フグは怯えてエサも食べず、岩場にひきこもり…泣く泣くニモ2匹には水槽を退場してもらうことに。前回ご紹介した白黒ちゃんも追い回されていたため、ホッとひと息。

静けさを取り戻した水槽に、黒ゴマのように小さな瞳のニモのペアを新たに迎え入れました。

先住のお魚たちも歓迎モード。新入り2匹にちょっかいを出しつつも大きなケンカはなく、今では平和な日々が続いています。